

COCニュースレター

新座市をキャンパスに！✦(プラス)となる人づくり、街づくり

<No. 8>平成28年10月28日発行
十文字学園女子大学 地域連携推進機構
(COCセンター)

COC研究プロジェクト pick up 地域志向教育研究の取組みを紹介します

新座市内の介護保険施設の利用者への傾聴ボランティア体験学習

- ◇代表者：大山博幸（人間福祉学科 准教授）
- ◇プロジェクト構成員：富井友子（人間福祉学科講師）、小野誠（新座市社会福祉協議会）

話を聴くことで、相手の心に寄り添う人間に

“傾聴”とは、相手の話に耳を傾け、丁寧に“聴く”こと。本研究では、大山ゼミの学生が新座市内の特別養護老人ホーム「そら一れ新座」で傾聴ボランティアを体験するとともに、体験の前後に、学生に対して傾聴スキルの数値測定を行っています。

事前に学生同士で、話し手と聞き手に分かれて練習を重ね、その後は実際に施設を訪問。学生は1対1で利用者の話をじっくりと聴きます。最初はなかなか自分から話しかけられずに戸惑う学生もいますが、回を重ねるごとに、会話が難しい場合は筆談するなどの工夫をしています。

活動後は学生間で感想を共有し、振り返りを実施。傾聴スキルに関する対人尺度の数値も、実施前に比べて上がりました。他にも、関西国際大学のグループ形態による傾聴活動を見学し、刺激を受けています。

今後は、施設の職員とより連携した活動や、近隣市のボランティア団体との交流を通して感じた課題等を、地域の福祉団体へフィードバックすることを考えています。

学生に学んでほしいのは技術だけではなく、相手を尊重して話を聴く姿勢。体験を通してそれらを身につけていくことを期待しています。



利用者が語る思い出や生い立ち話に、真剣に耳を傾ける学生



「NPO 法人 暮らしネット・えん えん食卓」食事サービス向上への取組み

- ◇代表者：岡本節子（食物栄養学科 准教授）
- ◇プロジェクト構成員：名倉秀子（食物栄養学科教授）、金高有里（食物栄養学科講師）
- ◇協力：小島美里（NPO 法人暮らしネット・えん代表）

自分が考えたメニューが食卓に～高齢者向けの献立を作成～

岡本ゼミの学生は、新座市の高齢者・障がい者を対象とした複合施設「NPO 法人 暮らしネット・えん」の夕食の献立を、1年を通して作成しています。「グループリビング」と「グループホーム」という、介護の段階が異なる2つの施設に合わせ、1つのメニューを考案します。

まず学生は施設を訪問し、利用者との食事を通して嗜好等を調査。それを基に献立作成と試作を行い、施設側の了承後、実際にその献立が食卓に並びます。食材、切り方、調理法はもちろん、量や色彩など、様々な面に配慮して高齢者向けのメニューを考案します。利用者の感想や要望も定期的に確認しており、中には厳しい意見もありますが、次回に生かす声として受け止めています。夏休みには実際に施設の厨房で調理も行いました。

はじめは献立作成や調理に苦戦する学生も多く、現場での動きもぎこちないものでした。しかしだんだんとコツを掴み、自主的に行動し、利用者にも積極的に声をかけるようになってきました。

自ら考えた食事を食べてもらう喜びを実感しながら、管理栄養士としての社会人経験に繋がるこの取り組み。今後はますますメニューを充実させるとともに、いずれは他の施設へ出向くなど、学生自身に活動を広げて行ってほしいと考えています。



配膳や盛り付けも行う。厨房内では、食器の大きさや調理器具の確認も



学生も発表、COC事業の合同会議を開催



地域の代表者と本学教職員が地域連携について話し合う「地域連絡協議会」と「+（プラス）キャンパス連絡会議」の合同会議が、7月28日（木）、7号館6階会議室で開催されました。地域からは新座市、朝霞市、志木市、和光市、清瀬市の各行政・教育の担当者、新座市商工会、同市社会福祉協議会、同市町内会連合会、埼玉りそな銀行、イオン新座店の各代表者15人、本学からは地域連携推進機構長の横須賀学長をはじめ、

COC事業に関係する教職員14人と、東畑開人講師、東畑ゼミの学生3人が出席しました。

会議では、東畑講師とゼミ学生がCOC事業「新座市『ふしぎマップ』プロジェクト」の活動について、研究の目的、マップ制作やイオンと連携したイベントの報告、活動によって学んだこと等を発表しました。その後の意見交換では、「今まではイベントでの連携が多かったが、今回の学生の発表を聞いて、新たな分野で連携したいと思った」「COC事業が、地域のPRに効果のある事業だと分かった」などのお話がありました。

図書館でポスターセッションを開催

合同会議と同日、「平成27年度地域志向教育研究費採択課題 成果展示・報告会」を図書館1階で開催しました。昨年度の地域志向教育研究費と、地域連携共同研究所の計43課題についてポスターセッション形式で活動を発表し、研究に携わった教職員や学生が、来場者への説明や質疑応答などを行いました。



和光市文化振興公社と相互協力協定を締結

9月1日（木）、本学と和光市文化振興公社は、相互協力協定を締結しました。それぞれの資源や人材を活用して連携事業を行い、地域における文化・芸術の発展や人材育成を目的としています。

当日は、松本和光市長と和光市文化振興公社の原田理事長、本学の横須賀学長が調印式に出席しました。

学生が活動できる場所が広がり、社会人基礎力の向上にもつながっていくことを期待します。



左から、原田理事長、松本市長、横須賀学長。
わこうっち（和光市イメージキャラクター）とプラスちゃんも同席

地域連携活動報告

7/16~10/8	健康栄養学科が「シニア健康教室」を開催（4回）	10/3	健康栄養学科の学生が新座市市民体育祭に参加
7/17	野火止四丁目集会所のミニコンサートにJ和太鼓部とコーラス部が出演	10/4・6	新座駅前赤い羽根街頭募金活動
7/18	東畑ゼミの学生がイオン新座店「打ち水大作戦」に参加	10/8	「ふるさとにいざ♣オータムコンサート」開催
7/23	大江戸新座祭りに学生がスタッフとして参加	10/8・9	新座市民まつり産業フェスティバルに参加
7/24	HUG ネット主催「竹ざいくと森のぼうけん」に参加	10/15~16	熊本復興支援活動の元気プロジェクトがいろはふれあい祭り（志木市）に出店
7/28	「地域連絡協議会・+（プラス）キャンパス連絡会議 合同会議」、「平成27年度地域志向教育研究費採択課題 成果展示・報告会」開催	10/27	「COC事業に係る新座市との意見交換会」開催
8/16~21	東畑ゼミの学生が企画した「新座ふしぎ妖怪イベント」をイオン新座店で開催	【今後の地域連携活動】	
9/1	和光市文化振興公社と相互協力協定を締結	10/29	もぐもぐアートフェスティバルに学生が参加
9/25	栄四丁目商店会「さんま祭り」にゾウキリンくらぶが参加	10/29~31	プラスちゃんくらぶが企画した「プラスちゃんのハロウィン」イベントをイオン新座店で開催
		11/5~2/4	健康栄養学科が「シニア健康教室」を開催（4回）
		11/6	「新座・地域ケアのつどい」が「あん」上映会開催



秋は本学でも地域でも、イベントが盛りだくさんの季節。産業フェスティバルやオータムコンサートなど、様々な場面で学生が活躍しています。COC研究プロジェクトの取材を通して、学生の間に地域の方と交流するというのは、とても貴重な機会だと感じました。これからも地域と本学をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。（編集部）